



2023.08

漢方医学センター  
班目 有加

## 月経痛と漢方

初のコラム番が回って参りました。今回は私が所属する産婦人科でよく使用する漢方薬をご紹介します。

- ① 当帰芍薬散
- ② 加味逍遙散
- ③ 桂枝茯苓丸

身体の不調を抱える女性で、漢方薬に興味があれば一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。婦人科三大処方といわれ、某ドラッグストアで漢方薬のコーナーがあれば、ほぼ置いてあるラインナップです。(ただし、ドラッグストアのものは「満量処方」と記載がない場合は量が半分のことがありますので裏面を見てみてください。)

なぜこの3処方が婦人科でよく使われるのかというと、月経に関する生薬が多く含まれ、安全性も比較的高く、よく効く場合が多いからです。

PMS(月経前緊張症候群)、月経痛、不妊、産前産後トラブル、更年期、女性はいつだってホルモンに悩まされます。軽やかに難なく通過する人もいれば、布団の中で縮こまって泣きながら耐える人もいます。個人差が大きく、感じるつらさや痛みは本人にしかわからない部分でもあります。婦人科では低用量ピルや黄体ホルモン製剤など、日進月歩でいい薬が誕生していますが、使ってもよくならなかつたり、リスクが高くて使用できなかつたりする例を多く見てきました。漢方治療はその一人一人の体質と、困った症状に合わせて漢方薬を選択していきます。ここでは簡単に対応できる症状の例を紹介します。

- ① 当帰芍薬散：月経痛、PMS、むくみ、めまい、天気の頭痛、冷え性、不妊、切迫早産
- ② 加味逍遙散：月経痛、PMS、イライラ、おちこみ、ホットフラッシュ、かたこり、頭痛、便秘、めまい
- ③ 桂枝茯苓丸：月経痛、下腹痛、便秘、ホットフラッシュ

上記三つとも月経痛に使用しますが、生薬のバランスでほかの症状にも効果があり、より適したものを選びます。他にも使える漢方はたくさんあります。今後のコラムで紹介していきますね。

女性は一生のうちで、ダイナミックな変化が起こります。思春期に月経が始まり、性的に成熟していきます。場合により妊娠出産をし、やがて月経は終わり閉経となります。約2000年前に書かれた中国最古の医学書といわれる『黄帝内経(こうていだいけい)』のなかで、年齢と成長過程の関係が記されており面白いです。女は7の倍数で変化していきます。「女7才、永久歯が生え髪が伸びる。14才、月経が始まる。21才、知歯が生える。28才、最も充実した身体になる。35才、顔にしわが生じ、抜け毛が始まる。42才、白髪がでます。49才、月経閉止。」昔と少し違い、初経が早まり閉経は遅くなっている印象がありますが、今も昔もこの身体の変化は同じなのです。東洋医学では、大昔からその身体の変化に合わせた治療をしてきました。

西洋医学では、検査上異常がないので経過観察でよいでしょう。という言葉がよく使われます。命に関わる病気でないと判断された場合、ホッとする一方、「ではこのつらい症状は治しようがないということ」と、受け入れなければならないということにもなると思います。東洋医学ではそんなときにも力になります。「病名」ではなく「体質」や「症状」に焦点を当て、いろんなアプローチで患者さんに向き合います。臆せずお気軽にご相談ください。